



これからの歯学部だよりの発行について

広報委員長 黒瀬 雅之

令和6年9月に発行させて頂きました歯学部だより創刊号は、本学同窓会である圭陵会様のご厚意により、圭陵会報381号（令和6年10月号）に同封させて頂く形で、OB/OGの先生方、保護者の皆様へお届けさせて頂きました。歯学部の“今”を知って頂くことを目的に発行しました歯学部だよりですが、多くのお褒めの言葉を頂戴しております。歯学部だよりは、3ヶ月毎の発行を予定しております。毎号、皆様の医院・ご家庭にお届けできればと考えておりましたが、昨今の環境意識の高まりを受け、郵送しておりました歯学部だよりをペーパーレス化し、令和6年11月に新設しました歯学部ホームページ内で、3D FlipBookのプラグインを埋め込み、じっくりと閲覧可能なデジタルパンフレット形式で閲覧頂けます。また、圭陵会様のご厚意により、圭陵会報内にもダイジェスト版となりますが記事として掲載して頂けることになりました。ホームページには、完全版を掲載させて頂きます。

今後は、1月/4月/7月/10月の中旬頃に歯学会だよりを発行しますので、是非に楽しみにお待ちしております。発行しましたら、歯学部ホームページ トップページからお知らせします。

新設歯学部ホームページについて

広報委員長 黒瀬 雅之

令和6年11月11日11時11分に、岩手医科大学歯学部の独自ホームページを開設させて頂きました。歯学部では長く、岩手医科大学のホームページ内に歯学部ページを設置し管理しておりましたが、ページ数の制限や仕様により、皆様に必要な情報の提供が容易ではありませんでした。そこで、独自のドメインによる独自ホームページの開設に至りました。

開設しましたホームページ (<https://www.imu-dent.jp/>) は、筑波大学関係のホームページを多く手掛けた実績のある茨城県の株式会社ヘレナメディアリサーチ様に依頼し作成して頂きました。ヘレナメディアリサーチ様は、動画作成の高いノウハウをお持ちでしたので、内丸・矢巾キャンパスでのPV撮影も行い、YouTubeに広く公開しております。歯学部の最新の情報を、新設しました歯学部ホームページ内から発信していきます。

[TOP](#)
[お知らせ](#)
[受験生の方へ](#)
[保護者の方へ](#)
[アクセス](#)
[資料請求/お問い合わせ](#)



誠の人間の育成



About us

学部紹介

Entrance Exams

入試情報

Education of Info

教育情報

Research Info

研究情報

Campus Life

キャンパスライフ

Job Life

キャリア・就職

International Exchange

国際交流・留学

Contributions to society

地域・社会貢献

岩手医科大学歯学部広報委員会では、歯学部の最新情報をお届けするため、公式SNSアカウント（Facebook・Instagram・YouTube）を開設いたしました。これらのSNSを通じて、在学生や卒業生の皆さまに学内の活動やイベント、研究成果、最新の歯科医療情報などをタイムリーに発信して参ります。歯学部の「今」を感じ、コミュニケーションを深める場として、ぜひご活用ください。皆さまのフォローとご参加をお待ちしております。また、SNSを通じて皆さまのご意見やご感想もお寄せいただければ幸いです。さらに、キャンパス内外のさまざまな取り組みや、学生や教職員の声をお届けすることで、岩手医科大学歯学部の魅力や日々の活動をより身近に感じていただけるよう努めて参ります。今後の情報発信にぜひご期待ください。最新技術の紹介や学術的な成果、学生たちのアクティブな学びの場面など、普段知ることが難しい歯学部の日常についても発信していく予定です。これにより、歯学部進学に興味を持つ皆さまにとっても、有益な情報源としてご活用いただけるよう、内容の充実を図って参ります。ぜひSNSを通じて岩手医科大学歯学部の成長と進化をともに感じてください。



2024年度 OSCEの実施について

客観的臨床能力試験であるOSCE（Objective Structured Clinical Examination）が、野田守 実行委員長のもと、令和6年12月8日に矢巾キャンパスで実施されました。

学生生活協議会の開催について

歯学部学生部長 八重柏 隆 教授

第86回私立大学歯学部学生生活協議会が10月16日（水）にホテルメトロポリタン盛岡（本学主管）で開催され、全国から私立歯科大学17大学および日本私立歯科大学協会が参加しました（総計45名）。本学からは小林琢也歯学部長をはじめ学生部関係者数名が参加し、全国の私立歯科大学が現在直面している学生生活の問題点等について、胸襟を開いて活発な協議をすることが出来ました。

本年度から私立大学においても義務化された「合理的配慮」の具体的対応から、コロナ禍で低迷した部活動再興に必要な工夫など、実際に経験した担当者ならではの貴重な情報共有が可能となりました。また、協議会に引き続き開催された情報交換会では、face to faceで楽しく交流でき、問題解決につながる具体的情報を共有することが出来ました。



歯学部の特徴ある実習の紹介

歯学部では、特色のある実習を行っております。その中で、1年生と5年生が参加する看護・介護体験実習と地域医療体験実習、そして3年生が参加する基礎科学演習を紹介させていただきます。普段、接することの少ないさまざまな人の生き方、生活のありように気づくとともに、人との関わり、さらには人を援助する上で大切にすべき姿勢や視点を体験的に学習することを目指した看護・介護体験実習と地域医療体験実習は、参加した学生さんから声を、基礎科学演習は責任者である細胞情報科学分野 石崎明 教授より紹介して頂きます。

看護・介護体験実習を体験して

1年 菊池 桃杏さん

10月1日から10日にかけて、私たち歯学部1年生は看護・介護体験実習を行いました。この実習を通して私たちは将来につなげられる考え方、行動、思いなど、様々なことを学ぶことができたと思います。

私はこの実習をする前、歯学部の私達がなぜ看護・介護のことを学び、さらに実際の現場で体験学習をするかの意義を考えていました。歯学部の学生が看護や介護の実習をしているなんてへんだなと思うはずですよ。おそらくそれが普通の反応だろうと思います。そういった思いを秘めながら、実習は始まりました。分かってはいたことですが、どちらも相当きつかったです。私は、介護体験では矢巾町にある特別養護老人ホーム「志和荘」で入居者との交流や、介護士のケアの見学、食事介助、口腔ケアアドバイスを行いました。看護体験では、附属病院にて看護師のシャドーイングやベッドメイキング、車いす送迎、清拭などを行いました。今こうしてあげてみてもやることがとにかく多く、実際はこれ以上の細かい仕事を体験しました。しかも、私はまだまだ経験の少ない素人です。実習を行っているときは、正直いろいろ思考を巡らせている時間はあまりなく、実習をこなすことで精いっぱいでした。

そうこうしているうちに実習は終了しました。とても疲れしました。大変でした。しかし、不思議なことに、嫌な疲れ方ではありませんでした。これは、私がなんだかんだやるべきことをできたからだと思います。きっと、達成感というべきものなのだと思います。ここで私はいかに連携というものが大事かに気が付きました。連携ができていないことがどれだけの「ムダ」「迷惑」「トラブル」を生じさせるかということに気づかされました。また、どちらの実習を行っているときも、患者さんたちから「ありがとう」と言われました。当然すごくうれしく、自然と笑みがこぼれました。その時、「ああ、私たちは結局のところ患者さんのありがとうの言葉が聞きたいから仕事をしているのだな」と感じました。これに改めて気づけた大事な機会になったと思います。この実習の経験を永遠のものとするためにこれから活用していきたいと思います。

介護体験実習を経験して

5年 春日 結衣さん

私は敬愛荘にて、主に入所者の方々の食事介助や食後の口腔ケアを行うことをはじめとした、介護体験実習を行いました。また、多職種チームのカンファレンスに参加した他、入所者の方々とコミュニケーションをとったり環境整備や入浴介助も行いました。

一口に入所者の方々へ口腔ケアを行うと言っても、数多い入所者の中には認知症を患っていたり意志疎通が難しい方もおられます。自分が1人の歯科学生として高齢者の方々のどんな役に立てるのか、立たなければならないのかということ念頭に実習に挑みました。

実習を通して、高齢者の方々、特に施設に入っている方々にとって一番大切なのは、一人一人に孤独を感じさせないこと、またQOLの維持のために口腔ケアを通して誤嚥性肺炎を防ぐことが大事であると学びました。これらは、超高齢社会で歯科医師を目指す私たちにとっては最優先懸念事項です。前者については1人の医療学生として、自分のコミュニケーションスキルと相手の心に寄り添う気持ちが試されます。また、後者においては、歯科的口腔ケアが全身疾患の予防へと繋がるということを理解する上で重要です。

今回の実習を終えて、超高齢社会のこれからを生きていく私達ができなければならないこと、知っておかなければならないことを知ることができた他、1人の歯科学生としての真価を問われた非常に有意義な経験となりました。この経験を糧に、誰かの役に立てる喜びを噛みしめながら臨床実習、勉学ともに励んでいきたいと思っています。

私は特別養護老人ホームにて、入所者の方々の口腔ケアを行った他、地域医療連携の実際を学んだり、多職種チームのカンファレンスにも参加させて頂きました。

入所者の方々への口腔ケアにおいては、スポンジブラシを用いた口腔清掃、歯ブラシ、歯間ブラシなどの補助的清掃器具を用いた歯面・歯間部清掃、義歯清掃などを行い、歯科衛生士さんの指導のもと、適切な口腔ケアの方法を習得・実践しました。口腔ケアを行う意義について、誤嚥性肺炎の予防の他にも、口腔ケアを始めたことをきっかけに施設内のおいしが気にならなくなったという事例があるというお話を聞き、口腔ケアがもたらす影響力の大きさに驚いたとともに介護の場での必要性を強く感じました。

また、入所者の方のほとんどは後期高齢者であり、高齢者の口腔内の特徴をふまえた上で、一人一人の口腔内状況から全身の健康状態を推察する能力、高齢者一人一人の介護レベルに合わせた衛生指導方法を構築していくことが、高齢者のQOL向上に大きく貢献するということを感じることができました。

私は今回の実習後に、入所者の方からありがとう、と言われたことがとても印象深く、学生である今でも十分に誰かの役に立てるんだという大きな喜びを感じ、自分に向けてくれる笑顔がとても嬉しかったです。この出来事を1つのモチベーションにしつつ、安心してケアを任せてもらえるような温かい歯科医師を目指し、日々の勉強にも励んでいきたいです。



前段左から2番目 春日結衣（筆者）



春日結衣（筆者）

基礎科学演習のご紹介

細胞情報科学分野 石崎 明 教授

歯学部3年次では、基礎科学演習という科目を設置しています。矢巾キャンパス西研究棟にある歯学系基礎講座で、最先端の歯学研究を体験するための教室配属型の実習を行います。まずは、オリエンテーションとして、各歯学系基礎講座で進めている最先端の研究についての紹介をしてもらい、その後に配属希望アンケート調査を実施し、学生の希望に沿った配属先となるような配慮をしています。また、本科目の授業の最終日には、学会形式の研究発表会を開催して、お互いの研究内容への興味や理解を深めるようにしています。そして、優秀な研究発表班を選出し、3年生全員と担当教員全員からの拍手をもって、その栄誉を称えます。

本科目を通じて、学生と教員が、同じ興味を持って楽しく研究活動ができることを大切にしたいと思います。



歯学部同窓会女性部では卒業後も同窓会活動への積極的な参画を推進するための事業を展開しております。その一環として、歯学部女子学生（第5学年）、女性臨床研修歯科医師との懇談会を令和6年9月3日に岩手医科大学創立60周年記念館8階研修室にて開催しました。参加者は女子学生16名、女性臨床研修歯科医師3名、同窓会から女性歯科医師5名が参加しました。

第1部は特別講演として鈴木未来先生（株式会社Laugh Associates代表取締役）をお招きして「女性のためのビジネスマナー研修」を開催いたしました。

第2部は懇談会として夕食を取りながら、参加学生・臨床研修歯科医師に同窓会について説明する機会としました。岩手医科大学歯学部同窓会の役割や将来の働き方（大学勤務、勤務医、開業医など）について説明し、卒後に女性歯科医師としてどのような選択肢があるのかを情報提供しました。新たな気付きや自分たちの未来にとって参考となる会になったのではないかと考えております。



第1部の特別講演の様子

臨床研修歯科医師の「今」

竹田 隆真（本学歯科医師卒後臨床研修センター）

本学で研修を始めて早くも数ヶ月が経ちました。私は、岩手で生まれ岩手で育ったため岩手の歯科医療に貢献したいという思いから本学を研修先として選び採用していただきました。研修先の選択は、歯科医師として今後を左右する大きな岐路であると思います。現在まで本学で研修を行っていますが、それは歯科医師人生において最良の選択だと感じています。本学で研修を行なってみて感じたことをお伝えできればと思います。みなさまの今後の進路選択の参考にしていただければと思います。

本学で研修を行い、よかったと感じたことは指導医の先生方のサポートが充実しているところです。診断、治療計画立案、治療練習、実際に患者に治療を行う時、すべてにおいて細かくサポート、アドバイスをしてくださいます。研修医は、大学5年次の臨床研修の時と比べて実際に患者に治療する機会が格段に増えます。教科書には載っていない知識や技術を教えていただけるので歯科医師として成長できていると感じています。2つ目に良かったと感じたことは、顔見知りの先生方や慣れた環境で研修を行うため歯科医師としての仕事に集中できることです。例えば、電子カルテの使い方は5年生の時にある程度覚えたと思います。しかし、外部で研修を行うと使い方をまた一から覚えなければなりません。研修医になると保険の算定の仕方や治療の手技など覚えることがとても多いです。それらに専念できることが本学で研修するメリットだと思います。

本学で研修を行うとこのようなメリットがあります。みなさんもぜひ本学での研修を考えていただければと思います。



後段中央 竹田隆真（筆者）

歯学部生の「今」

5年生 佐藤 万耶さん

歯学部に入部して、3年半が経ちました。編入して最初に受けた解剖学の情報量の多さに驚き、友人と必死に勉強したことが懐かしい思い出です。学年が進むにつれて、基礎や臨床の知識が深まり、5年生で臨床実習が始まると、座学とは異なる実践的な学びの楽しさを感じるようになりました。一步ずつ歯科医師としての道を歩んでいる実感が湧いてきます。歯科医師には、研究職、一般歯科勤務や大学病院勤務など多様な選択肢があることも魅力だと思います。歯科医師になる道は大変ですが、その分やりがいがあります。友人と支え合いながら、残りの学生生活も楽しんでいきたいです！



左から杉山莉佳子、春日結衣、佐藤万耶（筆者）

3年後期から始まったコースでは臨床的な実習をすることが多くなり、歯科医師になるということをより実感するようになりました。実習の中で自分ができたこと、できなかったこと、次はどのようにすればもっと上手くできるのか、そのために先生はどのようにやっているのかを見て自分で考え、その上で先生方に教えていただくことで、前よりもできるようになっていくのがとても楽しいです。

部活動では、バスケットボール部と歯学部準硬式野球部に所属しています。女子バスケットボール部には歯学部生が私1人しかいませんが、医学部や薬学部と交流する機会となり、他学部にも密に関わる友達ができました。今後の学生生活もたくさん学び、楽しく元気に過ごしていきたいと思っています。

4年生 相場 柚花さん



前段右から1人目 相場柚花（筆者）



2年生 天日 佑河君

歯学部に入部して2年生も終わりに近づいています。学生生活の中で、アイスホッケー部の活動経験はかけがえのない思い出となりました。その中でも特に心に残っているのは、千葉への遠征です。ここでは、非日常の生活を仲間と共に過ごすことができ今でも忘れられません。遠征での試合では、全員が切磋琢磨しあいながら価値のある試合経験を積むことができました。これから先、不安や壁が立ちあがるとは思いますが、このような経験を糧に大学生生活を過ごしていきたいです。

歯学部生の「今」

3年生 明本 和丸君

大学に入学してから3年が経過しようとしており、月日の流れの早さを実感しています。大学生活が始まった当初はコロナ禍で様々な制限がありましたが、現在は対面授業やイベントの開催などコロナ前の状態に戻りつつあると感じうれしく思います。

3年次後期では講義はほとんど専門的なものになり、毎日歯科に関する新たな知識を学べる喜びを感じる反面、知識の量の多さからCBTや国家試験への不安や焦りを感じることもあります。しかし、日々友人たちと話し合うことで、これまでの知識を確認できたり、自分が友人と比べ知識不足であることを痛感するなど自身の学修に対するモチベーション向上につなげることができています。

今年の部活動では硬式庭球部の歯学部主将として責任を持ち、大会に向け日々仲間とともに切磋琢磨していきました。

6年間の歯学生生活も折り返し地点にこようとし、CBTやOSCE、臨床実習、国試などこれからが歯科医師を目指すうえで大切な時期になってきます。大学生として学生生活を楽しむことも忘れず、自身が理想とする歯科医師に少しでも近づけるように日々励んでいきたいと思っています。



前段左から村山晴香、竹田紫乃、飯淵友理
後段左から照井勇人、明本和丸（筆者）、高野太陽

1年生 坪田 琴音さん

入学してから9か月が経とうとしています。大学での生活にも慣れ、楽しみながら日々の勉学に励むことができています。9月から後期授業が始まり、前期の教養科目とは異なり、より専門的な知識を扱う授業が増えてきました。人体の構造や機能を学ぶなかで、歯学部生としての自覚が芽生え、将来の歯科医師としての責任感も徐々に感じるようになってきました。授業や課題が難しくなる中、友人たちと支え合うことが学びの支えとなっています。わからないことを共有したり、試験前にはクイズ形式で確認し合ったりすることで、お互いに成長しているのを感じます。ときに勉強の延長で、食事をしながら悩みや将来の夢を語り合い、心のリフレッシュもしています。こうした、同じ目標を持つ仲間との時間は日々のモチベーションにも繋がっています。まだ始まったばかりの歯学部生としての道のりですが、卒業までに学ぶ知識は計り知れないと思います。目の前の課題や目標に向き合い、将来自信を持って患者さんに向き合える歯科医師を目指して努力し続けたいと思います。



後段左から佐々木圭人、澤田隆志、佐渡友紀
前段左から寺尾春香、坪田琴音（筆者）、菊池桃杏



サッカー部は、歯学部20名で活動しています。基本的に月、木、土曜日で活動しています。平日は矢巾キャンパスにあるグラウンドで練習し、土曜日は外部グラウンドで他チームとの練習試合や試合形式の練習などを行って日々活動しています。大会は、盛岡市民体育大会（市民大）、北日本医科学生総合体育大会（北医体）、全日本歯科学生総合体育大会（全歯体）の3つの大会に参加します。今年度の戦績としては、市民大(フレンドリーマッチ)惜敗、北医大は、2戦行い2戦ともにPK戦の末敗戦しました。

全歯体に関しては、参加することができませんでした。次年度の目標としては、北医体ベスト8を目指して、部員全員で練習に取り組んでいます。応援よろしくお願ひします。

学会賞受賞報告

- ①桑島 幸紀先生（歯科矯正学分野・特任准教授）が、日本顎変形症学会総会・学術大会で学会賞を受賞されました。演題は、「本邦におけるレセプト情報・特定健診等情報データベースを用いた顎矯正手術の実態調査」で、桑島幸紀、上田 茜、川井 忠、田中寛之、古城慎太郎、本多孝之、山田浩之、佐藤和朗先生のグループの調査研究です。
- ②櫻井 直人先生（歯科矯正学分野・大学院生）が、日本歯科理工学会 第82回学術講演会で企業賞(和田精密歯研賞)を受賞されました。演題は、「Ti-Ag-Nb-Cu合金のフッ化物溶液中での金属元素溶出挙動」で、櫻井直人、澤田智史、桑島幸紀、江川恭徳、伊藤圭太、新山慎太郎、染谷智子、笠原正彰、服部雅之、佐藤和朗、武本真治先生のグループの研究です。
- ③松尾 小百合先生（小児歯科学/障害者歯科学分野・大学院生）が、特定非営利活動法人日本咀嚼学会 第37回学術大会で優秀ポスター賞を受賞されました。演題は、「簡易粘度計装置の開発と実用範囲の検証」で、松尾小百合、森川和政、熊谷美保、加藤哲也、小林琢也、山村健介、黒瀬雅之先生のグループの研究です。



～臨床で使用する材料に触れて、その特性を理解する歯科理工学実習～



本年度からはじめてCAD実習（スクリーンに映しながら設計中）



2年次の後期と3年次の前期に現在開講されている歯科理工学では、ともに講義と実習で構成しています。座学で学修した内容をできるだけ実物を見て、触りながら知識を得ると同時に、高学年での臨床基礎実習に活かせるような項目立てをしています。2年次には従来の鑄造に用いる材料（印象材、模型材、ろう型材、埋没材、鑄造用金属）の硬化時間と寸法変化、強さに及ぼす影響を計測してもらっています。歯学部出身の先生方からすると当たり前とされていることだと思いますが、診療室と技工室での作業と材料の基礎的な性質を理解してもらっています。3年次には、合着用セメント、コンポジットレジン、アクリルレジン、接着、加工/熱処理と臨床で頻繁に使用される材料の取扱い方法から臨床での課題を習得してもらっています。また、昨年度までは夏休み直前に希望者のみで行っていた陶材焼成実習と新たにデジタル教育として、スキャナーを用いた計測からコンピュータ上でのCADソフトを用いたクラウンの設計を行っています。時代とともに用いられる材料や方法も進化していますが、大学を卒業するときに困らない知識と、卒業してから基本的な取扱いができる基礎を学修してほしいと思います。

歯学部を支えてくださる人たち

歯学部教務課事務係長 田村 学

歯学部教務課の業務の内、私が担当している主な業務は、学外組織からの各種調査依頼に対する回答書の作成や、学内の教育カリキュラムに関する委員会の運営です。教育カリキュラムに関しては、歯学教育モデル・コア・カリキュラムの改訂、歯科医師国家試験出題基準の改訂、共用試験（CBT、OSCE）の公的化と、ここ数年で大きな変化が立て続けに起こり、その都度、これらの変化に対応したカリキュラムを構築すべく、先生方と連携しながら業務を行って参りました。岩手医科大学歯学部オリジナルの「学生が学びやすいカリキュラム」を目指し、これからも先生方と協力しながら業務を行って参りますので、今後ともよろしくお願い致します。



編集後記：編集委員長 熊谷 美保



歯学部だよりもおかげさまで第2号を発行する運びとなりました。創刊号には、多くの方々から温かいお言葉や励ましをいただき、広報委員一同嬉しく思っております。今年の干支は巳年です。巳年は、「脱皮」をする蛇のように古い殻を脱ぎ捨て、新たな挑戦をするのに絶好の年とされています。歯学部だよりも発行スタイルを一新し、今後はさらに多くの方々からご意見や近況を頂戴しながら、より充実したものにしていきたいと考えております。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

発行：岩手医科大学歯学部 編集：広報委員会

本誌に関するご意見・ご要望はkouhou-d@iwate-med.ac.jp まで
写真は執筆者各位の提供により掲載しております。



Follow me!



@IMU_DENTISTRY